



La faux

-夢幻聖母-

"Fate/GrandOrder"
respect book
for adult only

STUDIO TIAMAT PRESENTS



本当に…
良いんです
ね…？

しる…

ジャンヌの
ママさん…

どき



ええ…
構わないわ…

その…他に
手は無いので
しょう…？



どき…



…やっぱり
おやこ
母娘だな…

綺麗ですよ
ママさん…

ぴんぴん



若い娘ジャネットの方が
張りがあって抱き心地
良いでしょうに…

ぴんぴん

けどこんな年寄りの
弛んだ肢体なんか
より…



フフ…

お世辞でも
嬉しいものね…

しんが…

そんな事
ないですっ

ズン

むち...

ママさんは
ジャンヌに
負けてません...

現に
ホラ...

みち

ココはママさんを
孕ませようと
昂ぶってる...

あ...

むち

ズン

あ...ひん

はあ...

私の名前は
イザベル・ヴトルグ

あ...ひん

実娘の真名を
借り受けた「偽英霊」の
サーヴァントである

ひん

むち

ひん

ズン



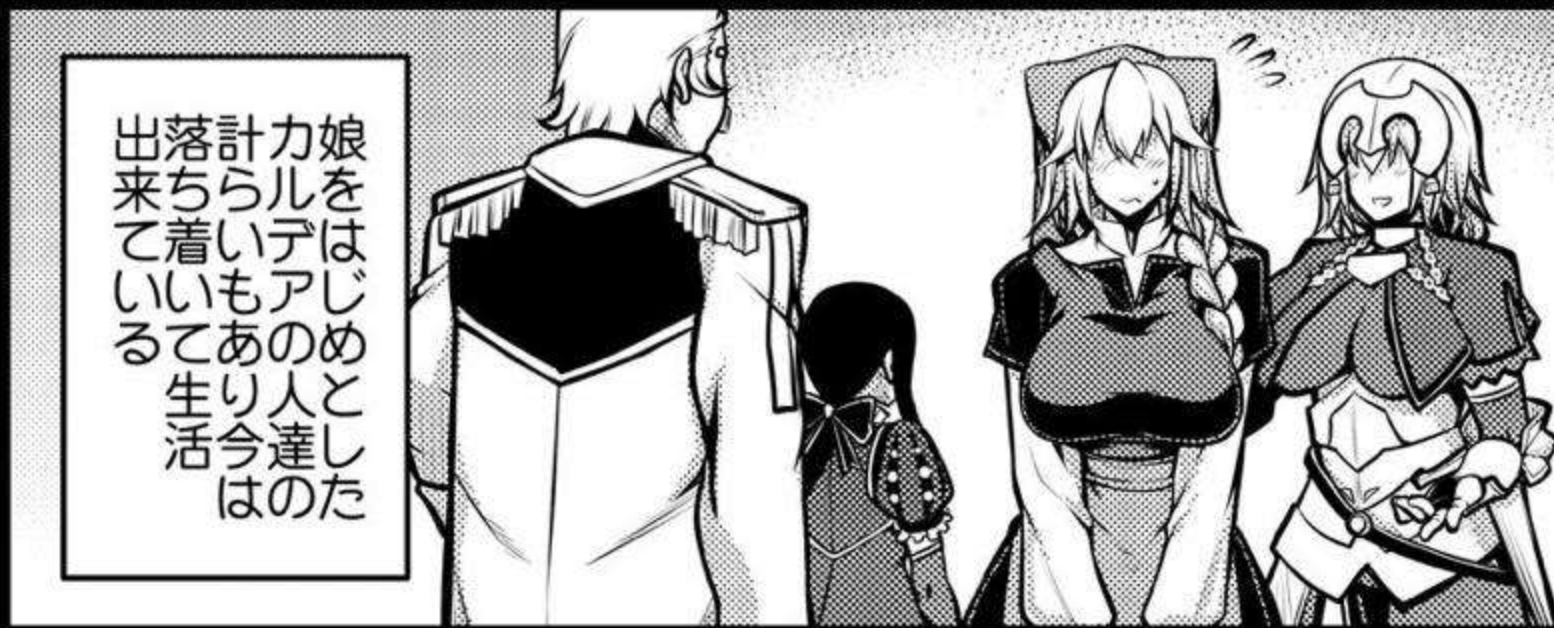
目が覚めた先で
出会ったマスターと
その…色々あって
娘の霊基として英霊化
したとか…

詳しい事は解らないけど
私は娘の記憶から
再現された存在らしい



原因

※前作「～快胎聖母」参照



娘をはじめとした
カルデアの人達は
力デアもあつた
計らうもあつた
落ち着いてる生活
出来て

自身の状況を
呑み込むには
それなりに時間を
要したけれど…



偶然
聖杯の保管庫に
立ち入ってしまった…



そんなある日
カルデアの施設内で
迷子になった
私は…



マスターと二人きりになっただけ

気が付けば 故郷を思わせる 平原でー



あ
え



新たに英霊を迎えなくては 必ず一回は閉じ込められる 一種の通過儀礼のようなものらしい

マスター曰く ここはサーヴァントの「夢の中」だぞと



今回は聖杯が絡んだ事で非常に厄介な様相になったよと

もぞ



大抵は夢の主の悩みに起因した状況を一緒に解決すれば済むのだけと



恐ろくは
以前彼と偶然
契約した時

ほんの少しだけ
抱いた「願い」の
せい…

実娘と睦み合う
男性との子を望む
なんて…

我ながら何て罪深く
浅ましい願いだらう…

とはいえ
サーヴァントは
子を作れない

では聖杯は如何にして
私の願いに応えるのか
と聞いて…

ありつたけの
マスターの魔力を
注ぎ込み

聖杯そのものを
受胎させる事



わっ

わっ

わっ

あ……うっ
良い……っ♡

気持ち良いよ
ママさん……っ♡

はっ
はっ

はっ

わっ

わっ



ああ……
この膣壁を擦る
遅い感触……♡

あ……あ……

夫のとは
太さも張りも
全然違う……♡

あ……あ……

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

あ……あ……

はっ



あ……あ……
あの娘を産んだ
オマ○○を……

その恋人の
肉棒が犯してる……♡

あ……あ……



まよ……

あ……あ……

あ……

この不貞をどうにか
お許し下さい……♡

わっ
わっ

はっ

わっ
わっ

はっ

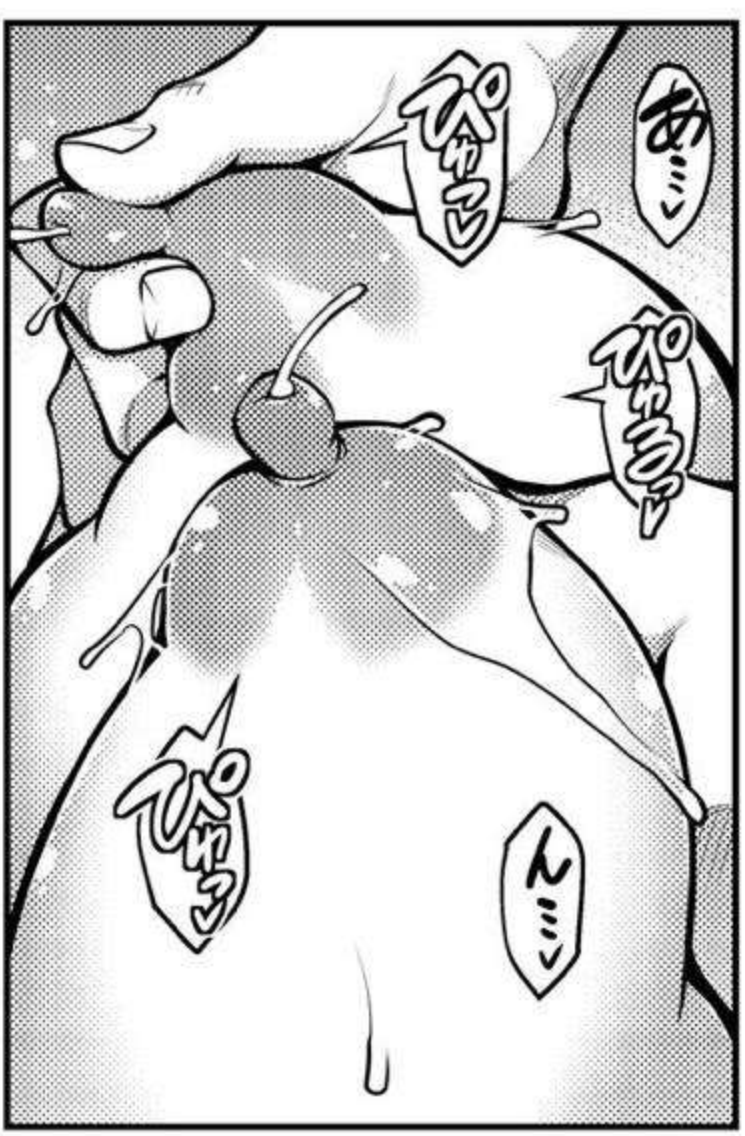




以前抱いた時も
そうだったけど
ママさん...

感じるところは
ジャンヌと殆ど
同じなんだ...

いや...あ...っ
そんな...恥ずか
しい...い...♡





この味...
ずっと忘れられ
なかった...

甘くて...ふんわり
香りが広がって...



…不思議な
気分……



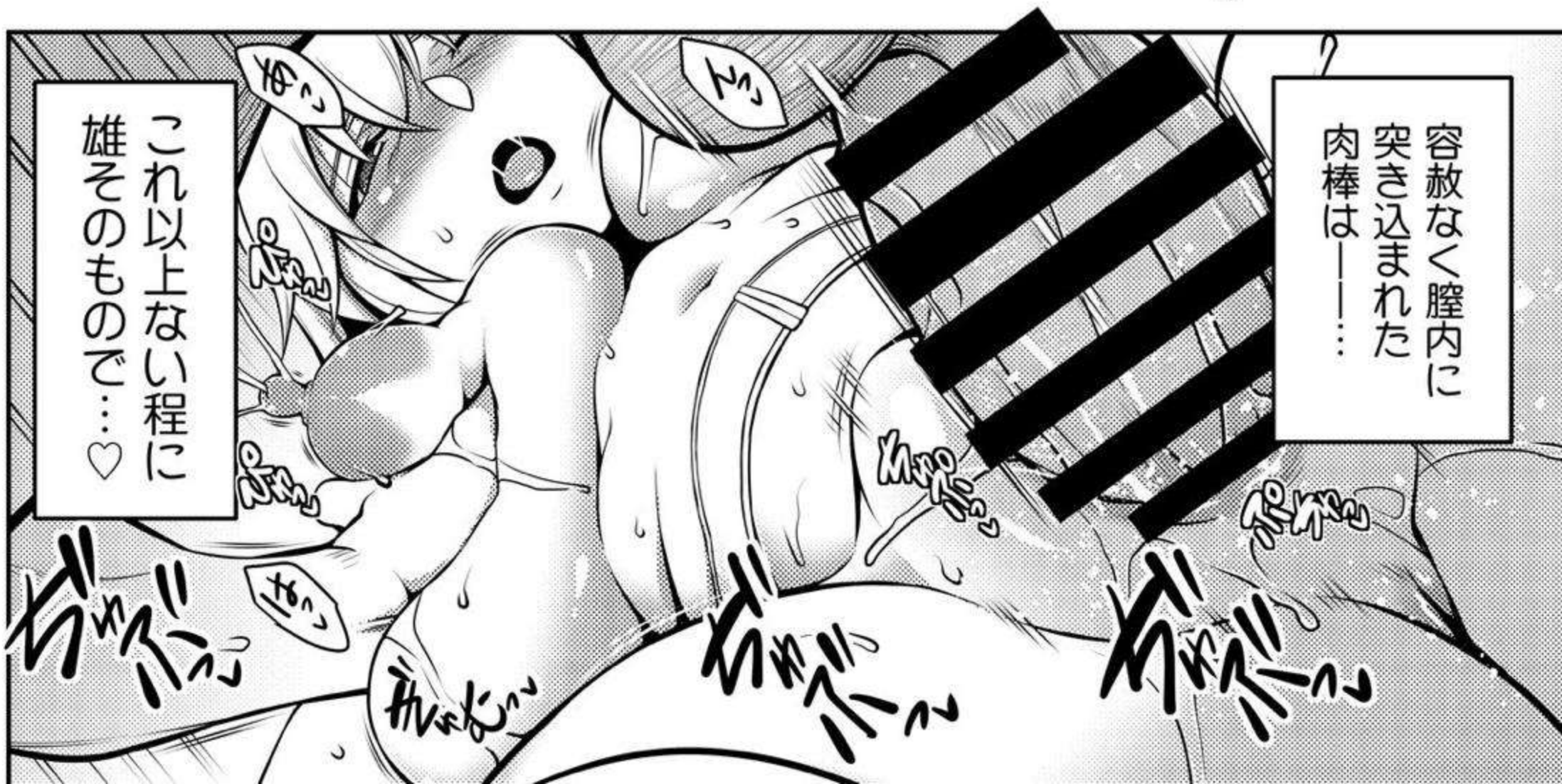
美味いよ…
ママさん…♡

美味い…♡



甘え絶る
顔は子供の其れ
なのに……

こっして
喉を鳴らして
母乳を貪り……



これ以上ない程に
雄そのもので……♡

容赦なく膣内に
突き込まれた
肉棒は……



まるで母性と
雌の本能が同時に
満たされていく
ような充足感…♡

夫と愛し合ってた
時でさえこんな
感覚なかった…♡



あーん…
んんんん…

あーん…
んんんん…

んん…

んん…

んん…

んん…

んん…

んん…

んん…



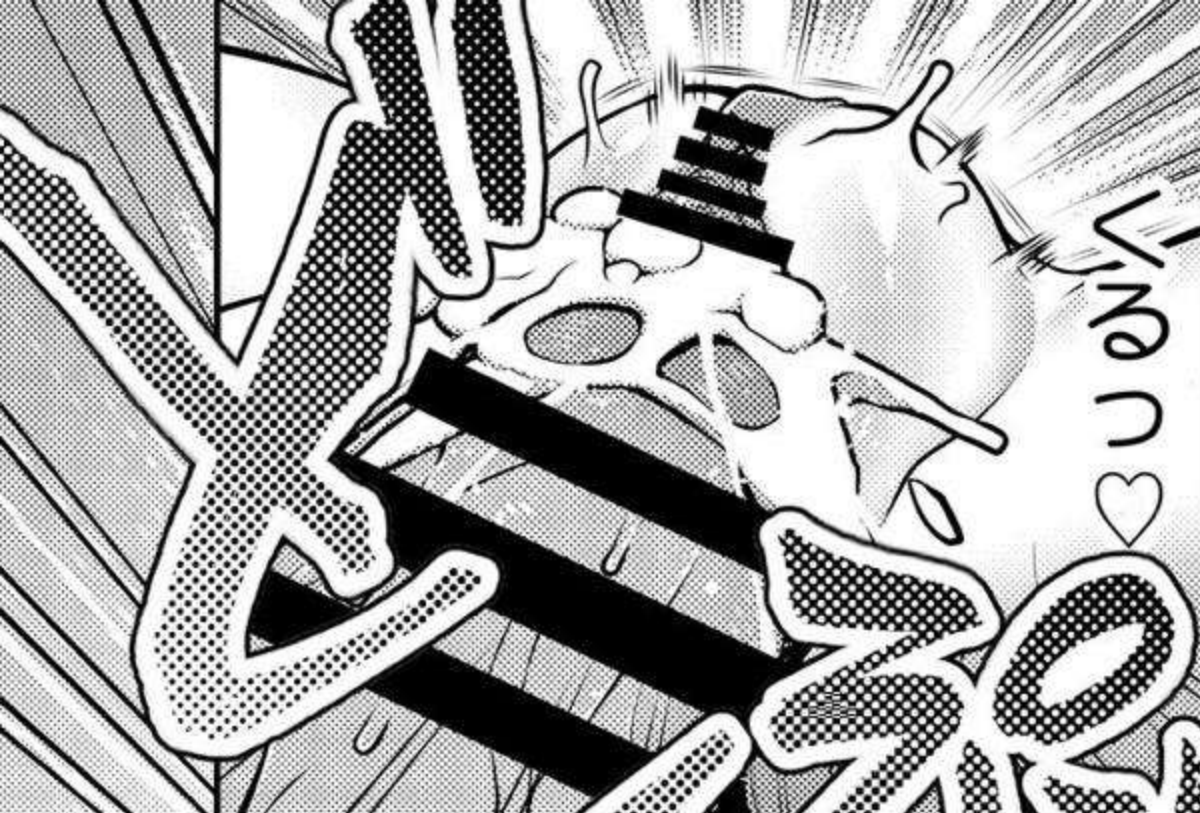
俺…そろそろ
射精ぞ…う…っ

ママ…
さん…っ



膣肉を分け入って
子宮を狙ってる…♡

一突き毎に膨らんで
きこるのが分かる…♡



私の膣奥…
子宮に種付け…♡

ああ…くる…
精子がくる…♡

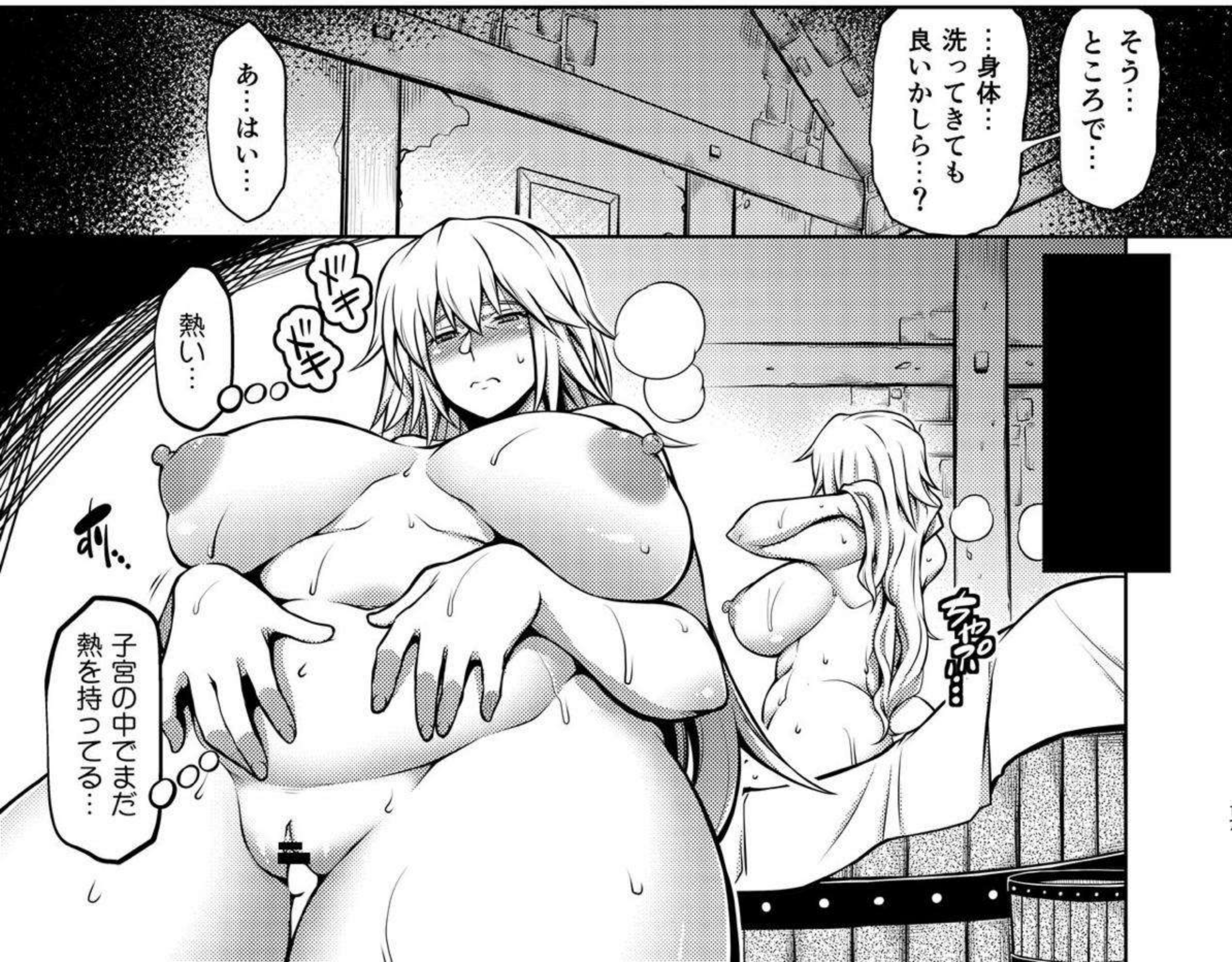




ああ...スゴく
良かった...♡

こんなに
射精るなんて...
思わなかった...

は...あ...♡
どう...だった
かしら...
マスター...?!



あ...はい...

熱い...

刺...
子宮の中でまだ
熱を持つてる...

...身体...
洗ってきてても
良いかしら...?!

そう...
ところで...



あの子に
抱かれた感触が
忘れられない…♡

身体が
年甲斐も無く
悦んでる…♡



ちやふ…
ちやふ…

勃起した乳首からは
相変わらず母乳が
溢れてくる…♡

切ない疼きで
乳房が張って
いくみたい…♡





んんん
ちゅる

ははは

ははは
ちゅる

んんん

んんん

んんん

ちゅる

ちゅる

あれだけ
射精したのに
まだ固い……♡

ああ…私は
本当に淫らな
女だわ…

またこの肉棒に
犯してもらえる事に
心から悦んでる……♡

ああ……うっ♡
た……
堪らないよ……
ママさん……っ♡

もつと……
もつと……
啜え込んで……っ♡

ちゅる

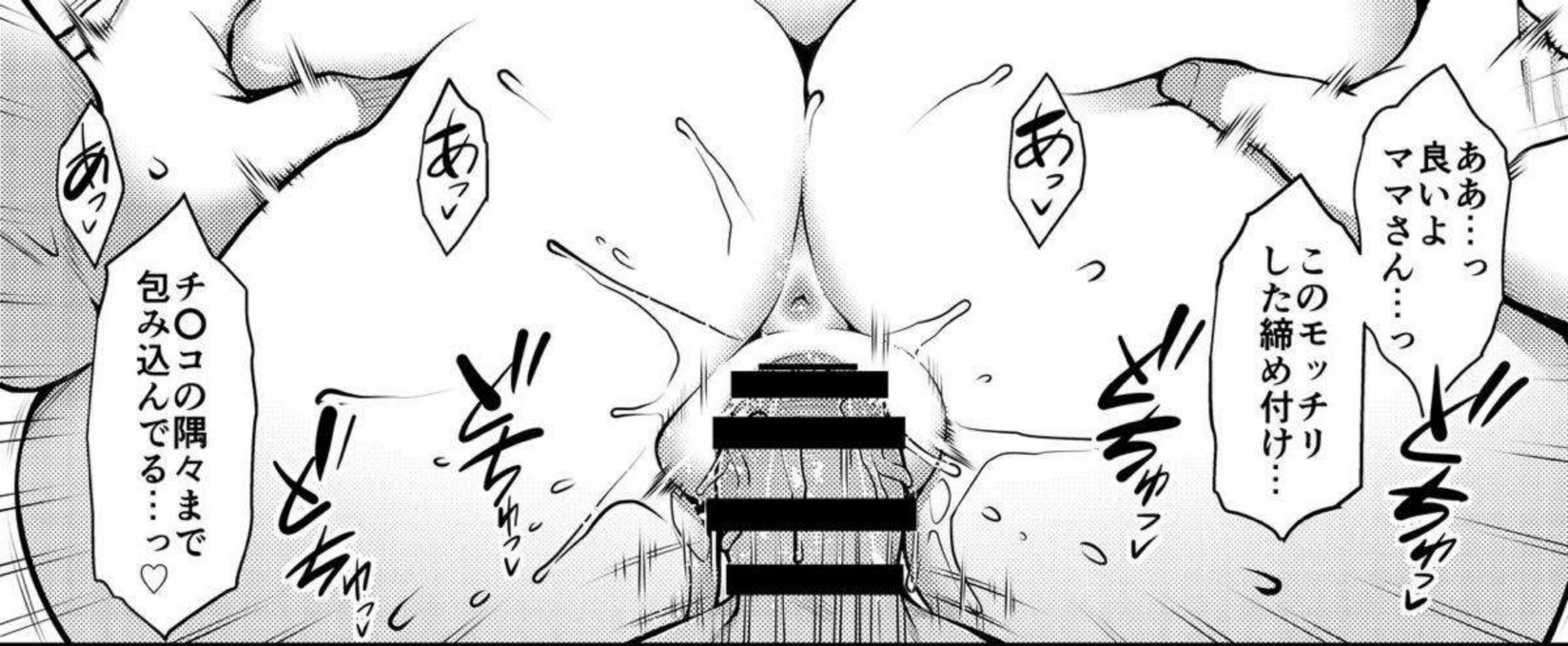
ちゅる

んんん

ははは

んんん





ああ...っ
良いよ
ママさん...っ

このモッチリ
した締め付け...

あっ

あっ

チ○コの隅々まで
包み込んでる...っ♡

どちゃっ
どちゃっ

どちゃっ
どちゃっ



ぽん
ぽん
ぽん

マ...
マスター...

そんな激しくしたら...

ぎゅっ

あん

あん

私...とても
立ってられ
な...あ♡

ほん

ぽん
ぽん
ぽん

ぽん
ぽん



ちやんとこうして
支えてるから...♡

え...?

は...

は...

は...

大丈夫だよ
ママさん...

は...

は...



おまけにっ

あぁあ

びびっ



こうして
勃起乳首を
弄ると...

ミルクが滲んで
ヌルヌルして
スゴくHだ...♡

びびっ

びびっ

んんん



あぁあ

はっ



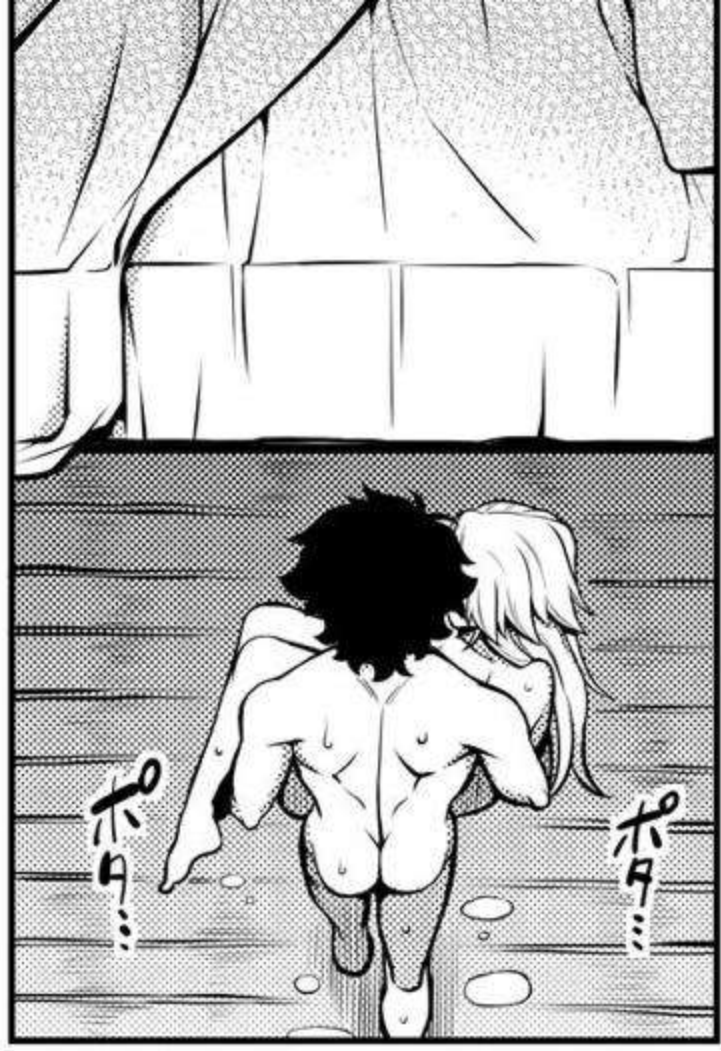
母乳のたっぷり詰まった
揉み応え抜群のおっぱいの
感触を味わいながら膣奥に
チ○コ突き立てるの...

病みつきに
なりそうだよっ♡

あぁあ

あぁあ







う…うん…
そうみたいだ…

でも…
これ以上ママさんに
無理強いするのも…



ちゅぽ…

マスター…

もしかして…
まだ…
したいの…？

ほ…
ほ…



…
♡



おなか
子宮内の聖杯は
まだこんな
欲しがってるの…♡

だから遠慮せず…
いらっしやい…♡



良いのよ
マスター…

確かに今のオバサンは
すっかりヘトヘト
だけど…

！

あり…



二人は互いに
衰えを知らない
「セックス
子作り」に身を
委ねていた…♡



所構わず
盛りあつた

それから
私達は



この特異点において
生活に要する物資に
不自由する心配は
無いらしく。

親子程の年の差も
些末な問題でしか
ないようで



多くの死線を
くぐり抜けた
マスターの性欲は

豪壮な英雄の
其れと言つて
過言はなかつた

あっ
あっ

あっ
あっ

あっ
あっ



そんな彼に
差し出せる
ものがー

こんな年寄りの
弛んだ肢体だけ
と言つ事に初めは
申し訳なく思ったが…

びん
びん

びん
びん
びん

あっ
あっ
あっ



そんな気持ちは
すっかり悦びに
置き換わつていた



連日
朝昼晩と求められ
子宮に注がれる
子種の熱に

あっ
あっ
あっ







ぽっ
ジャネット
やっぱり…
娘の事が恋しい
のかしら…?

ぽっ
もう…
こんな格好まで
させてセックス
したいなんて…
ぽっ

ん…
ん…
ん…



恋しくないと
言えば嘘に
なるけど…

ママさんにも
似合うと
思ったんだ…

ママさんも
ジャンヌと同じ
聖女…聖母だから…

…
♡

本当に貴方は…

こんな年寄りも娘のように愛してくれるのね…

勿論だよ…っ

俺は—
んむ…



そんな貴方だから…

私も愛してしまいのね…

びくっ
びくっ
びくっ





これって...
もうすぐ
産まれるって
事かな...?

ん...む...♡
また...
少し動いた...

ん...ん...
ん...ん...
ん...ん...



そうね...そして
この子
聖杯が産まれたら
この夢もお仕舞い...

そう考えると
少し寂しいわね...

こんなに満ち足りた
気持ちでの子作りは
久しぶりだったから...



ここ
特異点を出たら
改めて娘共々
宜しく...ね...

はい...
ママさん...

あむ...



—さん

母さん？

…
ジャネット？

私…
一体…？

大丈夫…
眠ってただけ
みたいだから

ただここは
聖杯保管庫だから
あまり長居しない
方が良いかな？

もう…昔から
迷子になった先で
居眠りするの
悪い癖ですよ…

それで何度
父さん達に心配
かけたか…

そうね…
ごめんなさい…

そういうえば
ジャネット…
マスターは？

マスターなら
自室で眠って
ますよ？

そろそろ
起きる頃ですし
一緒に食事に
しましょう

何だろ…？

とても…
濃密な時間を
過ごしてたよ…



La faux

-夢幻聖母-

発行元：STUDIO TIAMAT

発行日：2022/08/14

配信元：DLsite

サークル連絡先：TANABE

E-mail：tanabe@studiotiamat.sakura.ne.jp

URL：<http://studio-tiamat.sblo.jp/>

※無断閲覧・複製・転載禁止